設立趣意書
名称：情報ハイディング及びその評価基準（IHC：Information Hiding and its Criteria for evaluation）研究会
設置期間：平成２３年４月から平成２６年３月

設立目的：
　現在のコンテンツ保護技術は，正当なユーザにだけそのコンテンツを視聴可能にするために暗号技術を，万が一そのコンテンツが流出した場合，そのコンテンツを追跡するために電子透かし技術を用いて構成されることが一般的である．暗号技術は評価基準が明確であるため，その基準をクリアした方式は世界中で広く用いられている．それに対して，電子透かしを中心とする情報ハイディング技術は統一的な評価基準をもたないため，実効的と思えない研究発表が多く存在し，標準的な方式が存在しない．よって，本研究会は情報ハイディング技術に関する評価基準の確立，及びその評価基準を用いて情報ハイディング技術の向上を実現できるスキームを確立することを目的とする．
　評価基準が明確でない情報ハイディング技術を向上させるための最も実用的な方法は，方式同士を同じ土俵の上で競争させることと考えられる．よって，本研究会が実行することは情報ハイディング方式の比較ルールとしての評価基準を定めることと，それを比較・評価するための土俵（国際会議または専門セッション）を準備することと，提案方式の中から最も優れた情報ハイディング方式（以降，基準方式）を上記評価基準に則って定めることである．次年度以降は，評価基準の改善と，基準方式への攻撃募集と，基準方式を超える方式の募集を行い，評価を繰り返す．これによって，評価基準が明確かつ汎用的なものになっていき，その結果提案される基準方式は公開された評価基準をクリアしたものであり，かつ多くの攻撃に耐える実用性の高いものになる．
　このような手順による情報ハイディング方式の提案・評価のスキームは今までになく，世界初の試みと言える．また，このスキームを何年か継続させることにより，情報ハイディング技術のレベルが年々向上し，真に標準的に用いられる方式が提案され，日本発の世界標準になっていくと考える．
　具体的には情報ハイディング技術の中でも重要度の高い電子透かし技術を最初の対象として，本研究会は以下の（１）～（５）を継続的に行い，標準となる技術を追求する．

（１）電子透かし技術に関する評価基準の策定
（２）定まった評価基準の公開と，その基準をクリアする方式の募集
（３）応募された方式の評価基準に則った評価及び基準方式の決定
（４）基準方式への攻撃募集
（５）基準方式に対する攻撃の評価

幹事団および専門委員

役名	氏名	所属
委員長	岩村　惠市	東京理科大学
副委員長	合志　清一	工学院大学
幹事	栗林　稔	神戸大学
	柿崎　淑郎	東京理科大学
専門委員		
	岩田　基	大阪府立大学
	鵜木　祐史	北陸先端科学技術大学院大学
	越前　　功	国立情報学研究所
	金田　北洋	(株)キヤノン
	上條　浩一	日本ＩＢＭ
	川村　正樹	山口大学
	姜　　錫	北海道大学
	近藤　和弘	山形大学
	酒澤　茂之	ＫＤＤＩ研究所
	坂本　雄児	北海道大学
	薗田　光太郎	長崎大学
	高嶋　洋一	ＮＴＴサイバーソリューション研究所
	田中　　清	信州大学
	立花　隆輝	日本IBM
	新見　道治	九州工業大学
	西垣　正勝	静岡大学
	西村　　明	東京情報大学
	西村　竜一	情報通信研究機構
	荻原　昭夫	大阪府立大学
	藤吉　正明	首都大学東京
	宮崎　明雄	九州産業大学
	吉浦　　裕	電気通信大学
	吉田　真紀	大阪大学
	山田　隆亮	日立製作所
顧問	馬場口　登	大阪大学
	鈴木　陽一	東北大学